

「第2回広島市救急医療コントロール機能運営協議会」(まとめ)

1 日 時 平成24年3月13日(火) 19:00~20:30

2 場 所 広島市役所本庁舎 14階 第7会議室

3 内 容

(1) 救急医療コントロール機能の運営状況について

資料1(救急医療コントロール機能の運営状況)及び資料2(救急医療コントロール機能病院からの転院の内訳)について説明(広島市健康福祉局)

- 広島市民病院からの転院患者はこの4ヶ月間で45件だが、もっと転院があつていいと思う。
- これまで、患者への周知については、広島市民病院内で検討してきたが、全ての患者に説明できていない。ただ、広島市民病院だけで説明しても、なかなか患者に理解してもらえないため、行政と調整してやっていきたい。
- 救急医療コントロール機能の患者だけに転院の話をするのは難しい。
- 早い段階で、事前に患者への周知を行っていく必要がある。また院内の周知をお願いしたい。
- 市民への周知については、今後、検討して実施していきたい。
- 広島市民病院では、1/3を受け入れていないため交渉回数が増えるという意見があつたが、コントロール機能は、まず、一部稼働として転院からスタートしたもので、現在進めている施設整備が終わらないと救急の受入れの増加は徐々に増やしていく予定である。
- どれくらいの患者が転院の対象となるのか、また、どれだけマッチングできたかといった資料が出てくるとよい。
- ようやくアイドリングに入った状態であり、今は出口を見つけないといけないということが一番の課題である。コーディネーターとも調整しながら、どうやったらうまく転院ができるか検討して欲しい。

(2) 広島市民病院等と支援病院との意見交換の実施について

資料3(救急医療コントロール機能に係る広島市民病院等と支援病院との意見交換の実施について説明(広島市民病院))

- これまで、支援病院への転院があまりうまくいっていない。その理由として、患者への周知がまだうまくできていないことと、広島市民病院と支援病院がお互いを知らないため、どんな患者なら受入れが可能かよく分からないため転院を躊躇することがあつた。そのため、円滑な転院を実現できるよう直接支援病院に訪問し、コミュニケーションを図ることになった。
- 今後も、引き続き実施してもらいたい。

(3) 4月以降の支援病院の当番について

資料4(救急医療コントロール機能支援病院当番表について説明(広島市健康福祉局))

- ・これまで、当番病院を内科2病院として実施していたが、これまでほとんどが候補病院への転院となっており、補助金面でも無駄が生じている。4月以降の当番について考え方をお聞きしたい。

- 転院病院の選定については、患者に転院先について聞くと住所地の近い病院を希望することから、固定当番を決めてもなかなかうまくマッチしない。
- 予め当番日を決めてもらわないとベッドの確保が難しいという病院もあった。
- 広島市民病院の転院も少なく、現時点では候補病院の方が効率的だと考えられることから、当面、当番は候補病院で行うことにする。

(4) その他

- ・支援情報システムの不具合に対する対応について

- 前回の会議において報告された支援情報システムの入力画面の表示内容の不都合とスマートフォンのフリーズに対しては、画面の変更及びファームバージョンアップを行い不具合は解消した。